

小学校 体育科

1. 体育科における学習評価の基本的な考え方

体育科運動領域においては、教科書がないこと等を踏まえ、各学年の指導内容及び指導方法の在り方について、学習指導要領解説体育編はもとより、国や都道府県、市町村等が作成する体育指導の手引きや副読本等を参考に、各学校で十分に吟味し指導することが求められます。また、各時間において指導したことを全て評価する必要はありません。単元で重点的に指導し評価する事項や観点・規準を明確化し、評価方法を設定しておくことが大切です。

体育科の特徴として、指導したその時間内に評価するのではなく、次時以降も継続して指導や観察を行い、評価を行うことが考えられます。特に、単元の前半に設定する評価は、単元全体の指導のための評価と捉えて、単元の終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。

2. 小学校体育科の学習評価の事例

小学校体育科の「内容のまとめ」は、〔第 1 学年及び第 2 学年〕A 体つくりの運動遊び、B 器械・器具を使つての運動遊び、C 走・跳の運動遊び、D 水遊び、E ゲーム、F 表現リズム遊び、〔第 3 学年及び第 4 学年〕A 体つくり運動、B 器械運動、C 走・跳の運動、D 水泳運動、E ゲーム、F 表現運動、G 保健（1）健康な生活、（2）体の発育・発達、〔第 5 学年及び第 6 学年〕A 体つくり運動、B 器械運動、C 陸上運動、D 水泳運動、E ボール運動、F 表現運動、G 保健（1）心の健康、（2）けがの防止、（3）病気の予防に分けられます。

この内容のまとめを踏まえた学習評価の事例を、第 2 学年「器械・器具を使つての運動遊び」で説明します。



例 第 2 学年「器械・器具を使つての運動遊び」（マットを使った運動遊び）

（1）単元の目標の設定

単元目標は、学習指導要領解説を参考に設定することができる。語尾は、「～することができる（ようにする）」と表記する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。	マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。	マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲良く運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

当該単元で重点となる指導事項を明確にする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の巻末資料に「内容のまとめ」の事例の評価規準（例）が示されています。

内容のまとめの評価規準は、学習指導要領の「2 内容」をもとに作成することができる。

（2）単元の評価規準の設定

目標の実現に向けた児童の学習の状況を評価するため、評価規準は、「内容のまとめ」ごとの評価規準（例）を参考に、目標として設定した指導事項の文言をもとに設定します。評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」）、「～しようとしている」（主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① マットを使った運動遊びの行い方について伝えたり、実際に動いてみたりしている。（知） ② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。（技） ③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。（技）	① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がるように場を選んでいる。（思） ② 腕を支えながら移動したり、逆さまになつたりする動きを選んでいる。（思） ③ 友だちのよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友だちに伝えたり書き出したりしている。（表）	① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。（態） ② 順番やきまりを守り誰とも仲良く運動遊びをしようとしている。（公） ③ 場の準備や片付けを友だちと一緒にしようとしている。（共） ④ 場の安全に気を付けている。（安）

知識と技能で分けて設定する。

「思考・判断」と「表現」の 2 つに分けて設定する。

愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の項目に分けて設定する。

(3) 単元の指導と評価の計画 (全6時間)

時間	1	2	3	4	5	6	
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚つくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動 (感覚つくりの運動遊び)				マットランドで楽しもう	
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	びよびよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	グループでマットランドの場を使って楽しむ。作ったランドをグループ同士で紹介し合っ て楽しむ。		
45	ふり返り→遊びのバリエーションの紹介						他のグループが作ったランドで楽しむ。もっと楽しいランドになるよう工夫する。動きのバリエーションを楽しむ。
	ふり返り→遊びのバリエーションの紹介		腕立て横跳び越し		さかさまからのブリッジ		
	ふり返り→整理運動→片付け						毎時間全ての項目を見取るのではなく、単元全体を通してすべての項目を評価することが大切。
	転がり方を組み合わせる		腕立て横跳び越し		さかさまからのブリッジ		
知		① 観察	② 観察	③ 観察		②or③ 観察	
思			③ 観察・カード		① 観察・カード	② 観察・カード	
態	④ 観察	③ 観察		① 観察	② 観察		

観点別「おおむね満足できる姿」例 **評価規準を踏まえた具体的な児童の姿を想定します。**

評価の観点	「おおむね満足できる姿」例
知識・技能	・マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を伝えたり書き出ししたりしている。 ・マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。 ・前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなどいろいろな倒立の行い方を試し、遊んでいる。
思考・判断・表現	・坂道やジグザクなどのコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。 ・自分のしたい転がり方が行きやすい場を選び、遊んでいる。
主体的に学習に取り組む態度	・いろいろな運動遊びに繰り返し取り組んでいる。 ・遊び方の約束を守り、回ったり跳んだりしている。 ・友だちと協力してマットや用具の準備や片付けをしたり、声をかけ合って平均台を運んだりしている。 ・マットのずれを見逃さずに整えたり、危険な回り方をしないようにしたりしている。

(4) 本時の展開 (例：第2時)

●学習活動 ・気になる児童への手だて	◆評価規準「おおむね満足できる姿」 (方法)	十分満足できる姿
●場の準備をしよう ・グループで協力してマットを運ぶように声をかける。 ・場の配置図を用意して、置く場所が分かるようにする。 ●感覚つくりの運動遊びをしよう ・イヌ歩き、ウマ歩き、ワニ歩きなど色々な動きをするように声をかけて、動きを工夫させる。	◆場の準備を友だちと一緒にしようとしている。(観察) 態③	◆場の準備を友だちと一緒に行うだけでなく、 率先 して行っている。
●ころころランドで楽しもう ・基本となる転がり方(前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がり)を繰り返す児童には、工夫した転がり方(てつなぎ転がりや忍者転がりなど)やマットの形を変えてみるように声をかける。 ・転がり方が分からない児童には、行い方を助言する。 ●どんな転がり方ができたかを紹介しよう ・自分や友だちの楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。 ●いろいろな転がり方をしてさらに楽しもう ・友だちの行い方を真似て、いろいろな場で転がって遊ぶようにする。 ・〇〇コーナーを作り、いろいろな転がり方ができるようにする。	◆どの学習活動で、何を 用いて評価するのかを 明確にする。 ◆マットを使った運動遊びの行い方について伝えたり、実際に動いてみたりしている。 (観察) 知・技①	◆マットを使った運動遊びの行い方だけでなく コツや注意点 などを友だちや教師に 詳しく 伝えたり、カードに書いたりしている。
●学習をふり返ろう ・友だちの動きのよいところを認め合えるように言葉かけをする。 ●場の片付けをしよう ・役割を分けるなどして、みんなで作業できるようにする。	◆場の片付けを友だちと一緒にしようとしている。(観察)態③	◆場の片付けを友だちと一緒に行うだけでなく、 率先 して行っている。

